

峰ヶ丘会報

題字 松澤 康男 会長

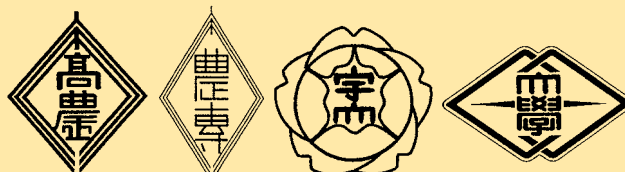
第157号 2019 (令和元). 9. 20



応用生命化学科 農場実習

CONTENTS

会長挨拶・副会長就任挨拶	2
学部長就任のご挨拶	3
農学部100周年記念準備委員会からのご挨拶	4
農学部創立100周年に向けた同窓会の取り組み	4
宇都宮大学3C基金事務局からのご挨拶	5
第5回農学部ホームカミングデー開催のお知らせ	6
退職の挨拶	7
新任教員挨拶	7
追悼	8
支部総会	9
クラス会	10
学生支援制度報告	16
令和元年度理事会報告	17
支部長一覧	19
お悔やみ	19
決算書・予算書	20
お祝い・寄贈図書	21
編集後記	21
こんなことやってます	22



大11~昭18	昭19~23	昭24~36	昭37~
高等農林学校	農林専門学校	新制宇大	宇大校章

MINEGAOKA NEWSLETTER No.157
The Alumni Association
 Faculty of Agriculture
 Utsunomiya University
 Utsunomiya 321-8505 Japan
 E-mail:minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp



会長挨拶

峰ヶ丘同窓会会長

松澤 康男 (農昭41卒)

平成から令和の時代になりました。新しい年号「令和」は、「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」ということを意味するようです。峰ヶ丘同窓会会員の皆様方におかれましては、益々ご清栄のうちにお過ごしのことと思います。同窓会会員は、現在、約15000名を数えて、国内外で活躍しています。本年度も会員各位の支援・協力によって、会員相互の親睦（美しく心を寄せ合う）と母校の発展（文化が生まれ育つ）に寄与することを目的に掲げて、活動・事業を進めてきました。

常任理事会は毎月一回ほど開催され、経常的な事業・行事などのほか諸課題について話し合い、執行してきました。宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会が2回開催され、

「宇都宮大学同窓会」構想が提案されました。構想は、従来の宇都宮大学連絡協議会に海外同窓会、留学生同窓会、学科同窓会などを包括し、組織・運営的に一本化して宇都宮大学との相互協力関係をめざすものでした。農学部同窓会は、各学部同窓会の歴史、組織運営形態の相違などを理由に猛反対しました。支部総会等は13県で、各学科の同窓会（クラス会）も数多く開かれ大いに親睦を深めました。教員教育研究支援で2件、学生支援で16件を採択して支援してきました。大学創立70周年記念行事が11月23日に開催されます。その内容については、農学部関連項目と共に検討してお知らせしますので、ご参加をお待ちしております。また、農学部100周年記念事業等については、農学部準備委員会で検討してきました。同窓会と農学部との緊密な連携のもとに実行委員会を設けたうえで、鋭意検討することにしています。同窓会常任理事の皆様には、極めて多忙な本務の中で同窓会活動に取り組んでいただいております。ここに感謝し、向後の協力をお願いします。



副会長就任挨拶

峰ヶ丘同窓会副会長

大塚 国一 (開昭48卒)

令和元年の理事会において、副会長という大役を仰せつかり、分不相応なことは承知しておりますが、謹んでお受けいたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

私は昭和44年（1969）農業開発工学科に入学いたしました。当時の峰ヶ丘キャンパスは学生運動のピークは過ぎていましたが、構内には立て看板やポスターなどが貼られ、雑然とした状態でした。また、学生ストライキが毎年恒例のように行われ卒業を危ぶまれた時もありました。そのような学生生活の中で一番の思い出に残るのは清原農場での「宿泊測量実習」です。清原農場は今では影も形もありませんが鬼怒橋を渡り、鑑山の先を左に入ると清原中学校の南に農場がありました。ここで3年生の夏一週間泊まり込みの測量実習をしました。昼は炎天下汗だくになりながら、水準測量やトラス測量などの外業。夜は標高や座標の計算や製図などの内業を古ぼけた木造建物の中で裸電球を灯し、タイガー計算機や対数表（今では博物館もの）を駆使し夜遅くまで、みんな一緒に作業をしました。そして、最

後の夜は打ち上げコンパです。故伊藤先生自ら味付けをしたジンギスカンで先生や友人と夜遅くまで焼酎を飲みました。文字通りの一週間寝食を共にした先生と同級生。二度とできない体験をし、言葉にならない信頼、友情そして深い絆が結ばれたと思っています。

卒業後は栃木県庁に農業土木職として採用され、土地改良事業に携わってきました。当時はハード事業花盛りで、圃場整備事業、灌漑排水事業、農道整備事業などがあちこちで行われていました。一応大学では必須科目の単位は取って卒業しましたが、仕事に役立つものは、ほんの数パーセントで全て先輩の教えを頂きながら一つ一つ覚えていきました。お世話になった先輩方のほとんどは、ありがたいことに農業土木同窓の先輩方でした。平成12年になると、県庁の組織改編があり、農業関係出先機関は農業振興事務所に統合されました。農業職、畜産職、行政職など様々な人々との関係が生まれましたが、気軽に親身に話ができたのは農学部同窓の皆様であり、同窓会人脈のありがたさを実感しました。

松澤会長様をはじめ役員会員皆様方の御指導御支援を賜りながら、未熟ではありますが、令和時代の新たな峰ヶ丘同窓会の発展に少しでもお役に立てるよう努力して参ります。



学部長就任のご挨拶

齋藤 高弘

同窓生の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

本年4月より、農学部長を拝命致しました、齋藤高弘（さいたこうひろ）と申します。この度、同窓会の紙面をお借りいたしまして、一言ご挨拶させていただきます。

現在の農学部は5学科体制（生物資源科学科、応用生命化学科、農業環境工学科、農業経済学科、森林科学科）で学部学生定員195名になっております。また、本年4月より文理融合・分野融合を推進する1研究科・2専攻体制で、高度な問題解決能力を備えた人材育成を目指す大学院「地域創生学研究科」がスタートしました。社会デザイン科学専攻では、ソフトウェア（コミュニティ、社会制度、文化、政策等）やハードウェア（建築、国土保全、環境等）のデザインに貢献できる高度専門職業人を育成します。農学関連では農業・農村経済学プログラムと農業土木プログラムの2つがあります。また、工農総合科学専攻では工学分野と農学分野に関するものづくり、食料・農林業・環境を支えるイノベーションの創造やマネジメントに貢献できる高度専門職業人を育成し、分子農学プログラム、農芸化学プログラム、農業生産環境保全学プログラム、森林生産保全

学プログラムの4つがあります。学生諸君は、共通科目や境界・学際領域科目を基礎に魅力溢れるカリキュラムの中で学びを深めています。

皆様はSDGsをご存じでいらっしゃいますでしょうか？持続可能な世界の実現に向けて国連により定められ、加盟国193か国が2030年までの達成を目指しています。「宇都宮大学SDGs事例集（大学HP内）」は、農学部が牽引し、大学の活動を可視化したものです。この冊子で、広く農学部の活動を知っていただくと共に、目標達成に向けて多くの皆さんとの連携が生まれることを期待しています。

最後になりますが、2022年には農学部は100周年になります。100周年記念事業は、峰ヶ丘同窓会と共催し進めております。また、本年11月23日(土)には70周年記念事業とホームカミングデーが開催されます。卒業生の皆様が、お楽しみ頂き、旧交を温められるそんな一時になりますように最大限のおもてなしを準備しております。是非是非、多くの皆様とお目にかかれることを楽しみにしております。今後とも同窓会の皆様からのご指導・ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

農学部 新入生歓迎会 開催

4月8日、混声合唱団の美しい校歌が講堂に響き、新入生歓迎会が行われました。

〈先輩の歓迎あいさつ〉

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。自分が入学したとき、大学生活ってどんな感じかなあというワクワクした気持ちや、ちゃんとできるかなあという不安でいっぱいでした。皆さんも今、同じように不安だったり、期待だったり、様々な気持ちを持っているのではないかと思います。

高校生から大学生になって、特に大きく変わるのは授業だと思います。高校生までは時間割が決められていましたが、大学では、自分で授業を選択し、時間割を作ります。また、1つの授業の時間も90分になります。自分が興味のあること、学びたいことを思いきり学ぶことができるのが大学の授業です。



そして、大学生になると、自由に使うことのできる時間が増えます。授業の間の時間、夏休みや春休みといった長期休みなど、旅行したり、趣味に没頭したり、アルバイトをしたり、できることはたくさんあります。

大学生活は、たくさんの可能性でいっぱいです。4年間、楽しいことばかりではないかもしれませんが、困ったとき、つらいとき、宇都宮大学には助けをくださる先生方がたくさんいます。私たちも喜んで力になります。勉強、サークル活動、アルバイト、遊びなど、たくさんのことをして、幅広くたくさんの人と出会って、充実した大学生活にしたいです。私たちと一緒に楽しみましょう。

農学部 応用生命化学科 4年 山崎 千織

農学部100周年記念準備委員会からのご挨拶

2022年10月に宇大農学部は創立100周年を迎えます。この記念すべき節目を祝い、次の100年に向けてさらなる発展を期すため、記念事業を行います。詳細につきましては峰ヶ丘同窓会と密接に連携しながら決定して参りますが、現時点で以下のような事業を計画しております。

- (1) 2022年の秋に100周年記念式典を挙行政致します。記念式典は、同窓生の皆様にもご参加いただき、共に慶びを分かち合えるようにしたいと考えております。
- (2) 100周年記念誌を刊行政致します。100周年記念誌は、農学部の100年を写真と共に振り返るビジュアル記念誌にしたいと考えております。
- (3) 100周年を記念した農学部のシンボルを作成します。船生の附属演習林の広葉樹の斜面を伐採し、宇大の頭文字の「U」の形にヒノキを植林しました。100周年を迎える2022年には山肌に「U」が浮かんでくる予定です。
- (4) その他の事業として、宇大農学部を広くアピールする様々な取り組みも行います。例えば、宇都宮のオリオン通り等に街頭フラッグを設置します。「農学部 100 周年記念基金」は、これらの事業に活用させていただきます。



基金には2019年7月末現在、57件、966,000円のご寄付をいただいております。寄付者の皆様に紙面をお借りしてお礼申し上げます。尚、高等農林時代の大谷石造りの旧図書館の改修は大学・農学部・峰ヶ丘同窓会と協力して進めて参ります。

100周年を機に、教育・研究基盤の一層の充実を図り、地域と世界の懸け橋となる拠点として飛躍することを目指し、これからも社会の様々な分野において活躍する人材の輩出に努めていきたいと存じます。皆様におかれましては、我が国の経済状況が厳しい中、誠に恐縮でございますが、本記念事業の趣旨にご賛同いただき、ご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

農学部100周年準備委員会 委員長 吉澤 史昭

農学部創立100周年に向けた同窓会の取り組み

皆様、既にご承知おきのよう、宇都宮大学農学部は2022年に創立100周年を迎えます。農学部峰ヶ丘同窓会では、大学開闢以来の最大のイベントである創立100周年に向けて、各種の記念事業を現在、鋭意、企画しているところです。また、大学（石田朋靖学長）も予てより、フランス式庭園、イギリス式庭園、旧講堂及び石蔵（大谷石造りの旧図書館書庫）の旧宇都宮高等農林学校時代からの歴史的な建造物群を後世に残すことを目的に、ヒストリカルゾーンとして包括的な整備を進めております。このうち、旧講堂は農学部同窓会員の多大なご支援により、2009年に「峰ヶ丘講堂」として改修され、2017年には「登録有形文化財（建造物）」に登録されました。



ヒストリカルゾーンのうち、未整備のまま残されている建物が石蔵であり、大学は農学部創立100周年を目処に石蔵の改修を計画しております。峰ヶ丘同窓会は大学から石蔵改修のための寄付金の協力要請を受け、6月の令和元年度理事会において慎重に審議した結果、同窓会の特別会計から石蔵改修費の一部として金一千万円を宇都宮大学に寄付することが満場一致で承認されました。

石蔵には、高等農林学校以来の歴史的な各種の資料を展示するスペースの他、会員の皆様が母校を訪れた際に往時を偲びながら歓談できるフリースペースなどが計画されております。引き続き、農学部峰ヶ丘同窓会では農学部創立100周年記念事業について各種の支援活動を行なうこととしております。会員各位の忌憚のないご意見と要望をお待ちしております。

庶務担当常任理事、農学科昭和53年卒 小笠原 勝

宇都宮大学 3 C 基金事務局からのご挨拶

農学部同窓会の皆さまには、宇都宮大学 3 C 基金の運営に際して深いご理解と協力を賜り、厚く御礼申し上げます。旧基金をベースに平成 29 年度に宇都宮大学 3 C 基金と改めてから 2 年間で、同窓生や地域の皆さま、企業の皆さまなど多くの方から、2 億 9 千万円のご寄附を頂戴しました。その中で農学部同窓会の皆さまからは約 1,400 万円のご寄附を頂戴しましたことに心から感謝申し上げます。これらの寄附金は、農学部の学生をはじめ、全学部学生と大学院学生への奨学金の給付、海外留学や国際交流等を推進するための教育・研究活動への支援、キャンパス環境の整備充実等に活用させていただいております。

さて、本年は宇都宮大学創立 70 周年を迎え、関連記念事業への支援を行っておりますが、3 年後（2022 年）には農学部創立 100 周年を迎えることから、記念事業の充実をはかれるよう、さらなる支援を目指して参ります。また、100 周年記念事業と並行して、大谷石蔵（旧図書館書庫）の改修を中心とした、ヒストリカルゾーンの整備も進めて参ります。この石蔵改修に際しましては、農学部同窓会理事会において、1,000 万円の支援が承認されたとのこと、重ねて御礼申し上げます。今後とも宇都宮大学 3 C 基金へのご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

～宇都宮大学 3 C 基金は、主に以下の事業を支援しております～

※平成 29 年、30 年度の 3 C 基金活動実績報告につきましては、宇都宮大学 3 C 基金ホームページをご覧ください。

農学部創立 100 周年記念事業

2022 年に迎える宇都宮大学農学部創立 100 周年の慶事を祝うとともに、さらなる発展を期すため、記念事業への支援を行う予定です。

- I .100 周年記念式典の挙行（2022 年秋予定）
- II .100 周年記念誌の刊行
- III .100 周年を記念した農学部のシンボルの作成（舟生附属演習林の広葉樹の中に農学部のシンボル「U」の形のヒノキを植林）
- IV .宇大農学部を広くアピールする取り組み（街頭フラッグの設置等）

大谷石蔵（旧図書館書庫）の改修を中心としたヒストリカルゾーン整備事業

峰キャンパスの歴史的建造物を、後世に残せるよう宇都宮大学ヒストリカルゾーンとして整備します。卒業生にとっては、思い出をよみがえらせながら、学生時代に瞬時に戻り集える空間にできるよう、大谷石蔵の改修を中心に整備を進めていきます。

コンセプト発表：2019 年 11 月 23 日

宇都宮大学創立 70 周年記念セレモニーに併せて行います。

完成予定：2022 年

宇都宮大学農学部創立 100 周年に併せてお披露目できるよう目指します。

奨学金事業

経済的な理由で、学業や諸活動へのチャレンジ精神が損なわれないよう、修学に必要な給付型の経済的支援を行っています。

- 飯村チャレンジ奨学金
経済的な支援が必要と認められたチャレンジ精神旺盛な学生への給付
- 入学応援奨学金
経済的支援が必要な県内高校出身の学生への給付
- 関スポーツ奨学金
スポーツ活動に参加し、学業との両立で経済的支援が必要な学生への給付
- 増山奨学金－外国人留学生支援奨学金－
留学時の生活のための経済的支援が必要な外国人留学生への給付
- 増山奨学金－海外留学支援奨学金－
海外留学のために経済的支援が必要な学生への給付
- 斎藤裕奨学金
理工系に在籍し、先進的な研究開発に意欲がある学生への給付

教育研究支援事業

国際的に活躍できる人材育成にむけて、国際連携教育活動、海外派遣プログラム、研究留学に参加する教員・学生への助成を行っています。また、より良い学びの場を提供できるよう、教育設備やキャンパス環境整備への支援を行っています。

- 教育プログラム支援：
国際連携教育活動を行った学生への支援
- 3 C 留学奨励金：
英語研修やインターンシップ等の海外派遣プログラムに参加する学生への支援
- 大学院生研究奨励金
フィールドワークや各種調査に取り組む学生への助成
- 齊藤裕研究助成金
先進的な理工系の研究で研究留学する教員への助成
- 教育設備の充実
基盤教育英語科目への iPad と周辺機器の導入
- 課外活動用の備品補充への支援
- キャンパス内改修工事への支援

宇都宮大学 3 C 基金の詳細につきましては、ご案内リーフレットをご覧ください。

ご寄附はリーフレットに添付の振込用紙を活用ください。寄附目的を選んでいただくことができます。

また、ホームページからでも簡単にお手続きいただけます。



宇都宮大学 3 C 基金

検索

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/activity/fund/3c-kikin.php>

お問い合わせ 宇都宮大学 3 C 基金事務局
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰 350 TEL:028-649-8177
E-mail:kikin@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

第5回 農学部ホームカミングデー

2019年11月23日(土) PM

宇都宮大学創立70周年を迎える今年のホームカミングデー
みなさまとの再会を喜び一緒に楽しく過ごすためのプランをご案内します

【農学部ホームカミングデー】

12:30 ~ 受付(農学部1号館東側出入口内)

13:00 ~ 餅つき

※1E11教室(階段教室)周辺で、常時、軽食を用意しています。

13:30 ~ 農学部ウェルカムパーティー(1E11教室)

・農学部長挨拶(100周年記念事業の進捗状況)

・乾杯(同窓会会長)

・歓談(同窓生・学生の懇談・学生ポスター発表同時開催)

・閉会

15:30 ~ 大学祭への参加(自由)

【農学部ホームカミングデーのお申し込み方法・問い合わせ先】

1. 電話(028-649-5398) 2. FAX(028-649-5401)

★確認内容★

①参加者氏名(同伴者人数) ②郵便番号・住所・電話番号 ③卒業学科名・卒業年度

※申込み締切を、10月25日(金)までとさせていただきますが、当日参加も歓迎します。

なお、12:00より農学部棟2F大会議室を控室としております。待ち合わせなどにご利用ください。

《同時開催 宇都宮大学創立70周年記念セレモニー》

・10:00 ~ オープニング(大学会館2F)

・10:10 ~ 10年間の振り返り

・10:40 ~ SDGs関連企画(学生発表)

・11:30 ~ ヒストリカルゾーンコンセプト発表

・12:00 ~ ガーデンパーティー(仏式庭園)

※宇都宮大学創立70周年記念セレモニーの事前申し込みは特に必要ありません。

退職のご挨拶



附属農場
居城 幸夫

宇都宮大学に赴任したのは1982年9月、それからおよそ37年間の思い出を述べたいと思います。赴任当時の農場は各地に分散していた旧農場が真岡市下籠谷に統合したばかりであり、管理棟以外はまだ手付かずの雑木林が残っている状態で、果樹園や温室、桜並木、管理棟前の植栽などありませんでした。当時の若林農場長に「これから君に農場を作ってもらいたい、特に研究面で弱い農場では博士号を持っている君には期待している。どんどんやってくれ、」とご指導頂きました。しかし現実には新農場開設に向けて施設整備等の仕事で峰キャンパスから下籠谷へ通う毎日で、研究どころではありませんでした。1年過ぎた1983年には新農場に移ることができ、夕方や土日を利用して研究も少しずつできるようになりましたが、峰の研究室とは違い研究施設はまったく貧弱でしたので、これまでの研究継続は無理と考え、農場勤務を生かしてできる現場に役立つ研究へと変更しました。現場から抽出した栽培試験を通しての研究は結果出すには時間がかかり、論文にまとめるまで苦労しました。10数年後学部学生や大学院生も自由にとれるようになり、研究室の形になってくると実験・研究が進むとともに、研究を通しての教育もスムーズに行くようになりました。これまでサンダーソニア等の球根植物の球形成・肥大に対する環境条件や植物調節物質からの解明、最近ではジネンジョのむかご形成の解明、ニホンナシの水浸状果の解明、シクラメンの良品生産などに研究対象を広げました。

2010年度からは4期8年にわたり附属農場長を務め、この間に全国の大学農場に先駆けて教育関係全国共同利用拠点としての認定の活動を行い、フィールド教育を全国的に働きかけました。また2012年度から2年間は全国大学附属農場協議会会長をつとめ、全国の大学農場の発展に努めました。さらに2010年度から8年間は栃木県園芸懇話会の会長として地域の園芸学の発展にも努めました。

退職後は故郷の新潟にできました新潟食料農業大学で教育研究を続けることになりました。最後に宇都宮大学、農学部、農場、峰ヶ丘同窓会の益々の発展を祈念し、退職の挨拶としたいと思います。



新任教員のご挨拶



早川 智恵

所属・職種：農学部 生物資源科学科
助教
専門：土壌学

2019年3月に農学部生物資源科学科に助教として着任いたしました早川智恵と申します。生まれはお隣、群馬県太田市です。地元の高校を卒業後、京都大学に入学し、博士号（農学）を取得いたしました。学位取得後は、つくばの農業環境技術研究所のポスドク、東京大学では学振PDとして研究に従事し、この度、宇都宮大学で研究・教育に携わる機会をいただきました。

私の専門分野は土壌学です。特に、土壌中に大量に存在する有機物とそれを分解する微生物の働きを研究しています。土壌有機物は畑の肥沃さを決めるだけでなく、大気中の二酸化炭素の二倍もの炭素を含み、地球温暖化にも大きな影響力を持ちます。土壌有機物の量を変化させる微生物や粘土鉱物の働きを明らかにできれば、土壌有機物量の予測や制御が可能になり、畑の肥沃度管理や気候変動に適応した農業の開発に貢献できると考えています。

現在はラボワークが中心ですが、学生の頃はタイの焼畑、インドネシアの熱帯雨林、カザフスタンの草原で土を掘っていたこともあります。その経験を通じて、理論構築とフィールド学習のどちらも重要であると認識するようになりました。宇都宮大学はラボとフィールドが近接しており、魅力的な環境で研究・教育に取り組む機会に恵まれたことを感謝しております。学生の皆さんにも、座学と現場の両方の体験を通じて、自分の視座で見て考える論理的思考方法を身につけてもらえればと考えております。

まだまだ未熟でございますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞ宜しくお願いいたします。

入学式および保護者ガイダンス

4月3日に宇都宮大学入学式が行われました。206名の学生が農学部へ、70名の学生が地域創生科学研究科（農学系）へ入学されました。午後は、保護者ガイダンスが行われ、松澤同窓会長からは、在学中の各支援や卒業後の全国支部との繋がりについてお話があり、大勢の保護者が耳を傾けていました。



追悼

長田明夫先生を偲ぶ



長田明夫先生は、2019年2月3日にお亡くなりになりました。享年91歳でした。1958年、全国の国立大学に先駆けて海外農業研究、農業資源開発、拓殖移民などを標榜する「拓殖学講座」が農学

科に新設され、菅原友太教授と中田正明助教授が担当しました。長田先生は、二代目の教授として熱帯農業と農業技術分野の教育研究を担当するとともに、講座名を「比較農学講座」に改めて多くの優秀な学生を輩出し、現在の地方農業研究機関の指導者を養成しました。

長田先生は、大の日本酒（燗酒）党で、当時の教授陣には辛党が一人もいなかった農学科に「酒を嗜む会」を立ち上げてくれました。その会では、海外特に東南アジアのイネ研究の動向や栽培技術の課題、南米の農業資源の利活用などをあつく語っていただきました。また、先生はかなりの愛煙家でした。ある時、ぴたりとタバコをやめられたのです。その理由（きっかけ）を例の「嗜む会」でうかがったところ、「タバコを吸うやつが、俺はバカに見えてきたよ」と喝破されたのです。

1983年、私は多くの方に支えられ学位を取得することができました。ある時、トイレで隣り合わせになった長田先生は、学位取得を祝ってくださり、話しかけてくれました。「はえぬきが、こつこつと努力し、学位を取ることは並大抵のことではないからなー」と。

長田先生は、農水省時代から野球好きだったようです。学生と若手職員の草野球にはたびたび顔を出し、先生のキャッチボールやバッティングのフォームはなかなかのものでした。

農林省機関での試験研究に基づいて、引き続いて学部、大学院修士課程、連合大学院で教育、研究に尽力され、イネ研究、熱帯農学、農業技術普及という実学を展開され、学生諸君と後輩教員にも「農の光」を差しのべ続けられたご生涯でありました。

長田明夫先生に心から感謝しますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

（農学科 昭和41年卒 松澤 康男）

追悼

阿部憲治先生を偲ぶ



阿部憲治先生は2019年1月1日、急逝されました。享年82歳でした。昨年1月にお会いする機会がありましたが、急逝されるとは思えないようなお姿でしたので、訃報に接して大変驚いた次第

です。実は奥様も9日後の1月10日に後を追うようにお亡くなりになったと伺っております。仲良く連れ立っての旅立ちにも感じられました。

先生は昭和38年3月に総合農学科を卒業され、その後、東京大学農学部水産学科の助手を経て、昭和44年6月に農芸化学科食品化学講座（当時）に着任されました。先生が赴任されたとき、私はちょうど学部の4年生で、続く大学院修士課程修了までの3年間、ご指導を受けながら過ごしました。

昭和49年4月、農芸化学科に応用微生物学講座が新設され、農産物利用学講座に在籍されていた五月女伸一先生と高橋衛先生が新設講座に移られた関係で、先生は食品化学講座から農産物利用学講座に移られました。

先生はオキアミの有効利用としての魚醤製造の研究や栃木の伝統食でもあるしもつかれの製造と香味成分の研究などを手がけておられました。また、昭和59年4月に農産加工室が農産物利用学講座から食品化学講座に移管されることになりましたが、それまでは農産加工実習も担当されるなど学生指導に当たられました。先生は平成元年9月にご都合により農芸化学科を退職され、さくら市にある株式会社荒井食品の技術顧問に就任されました。同社を退職された後は、栃木県産業振興センターの技術アドバイザー、あるいは本学地域共同研究センター（現産学イノベーション支援センター）の客員教授として県内産業の振興にも尽力されました。

日頃は体調管理のため、お住まいになっていた芳賀町の田園地域にある整備された広めの歩道を頻繁に歩くなど、運動にも精を出されているように伺ったことがありました。奥様ともども安らかなご永眠をお祈りいたします。

（農芸化学科 昭和45年卒 宇田 靖）

支部総会（3支部）

全国の支部活動のご紹介です。同窓生の皆様には各県支部に入会頂き、同窓生のつながりを深めて頂きたいと思えます。お問い合わせは、P19の支部長一覧をご参照下さい。支部総会開催の際は、事務局までご連絡ください。

NAGANO

長野県支部総会

平成30年10月27日、長野市内の「ホテル信濃路」で2年毎の長野県支部総会が開催されました。

当日は、同窓会本部理事である雑草と里山の科学教育センター教授の小笠原勝先生をお迎えし、県下各地から同窓生19名が集いました。

総会は、高野義文支部長（農S37卒）の挨拶に始まり、議長に坂本光男氏（工S43卒）を選出して議事が進められ、会計報告は全会一致で承認、役員改選では現役員が全員再任されるとともに、次期総会当番学科は「農業工学」に決定し、幹事長には佐藤恒夫氏（農工S48卒）が選出されました。来賓の小笠原先生からは御祝辞と最近の宇大事情など興味深い挨拶をいただきました。

記念の集合写真を撮った後の懇親会では、大先輩の水出仁氏（工S35卒）のご発声により開宴し、平成世代の岩田直樹氏（生物生産科学科H24卒）の初参加で新しい交流が芽生えるなど、参加者同士酒を酌み交わしながら、近況や今だから話せる学生時代の思い出話に花が咲き大いに盛り上がりました。支部活動に対しても、若い同窓生、特に増加している女性の参加呼びかけ強化や電子メールの活用検討などのご意見もありました。

宴も進み、最後は校歌、コチャ工節など参加者全員で大合唱し結束を深め、次回の再会を誓い散会しました。

（農S52卒 本井 治）

YAMA
NASHI

山梨県支部総会

平成30年11月28日(水)、甲府市内のホテル「談露館」において会員22名の参加により宇都宮大学同窓会山梨県支部総会を盛大に開催しました。

総会に先立ち、この一年間で亡くなった山梨県支部会員の冥福をお祈りしました。総会は、支部長の武川仁（旧林25回卒）のあいさつに続き、事務局から29年度事業報告や30年度事業計画等の報告を行い、満場一致で承認されました。

全員集合の写真を撮った後の懇親会は、顧問の浜武人（旧林23回卒）の乾杯の発声で始まり、先輩と後輩の談笑の輪が広がり、思い出話に華を咲かせました。懇親会は瞬間に過ぎ、参加者全員が来年の再会を約束して、閉会となりました。

山梨はワイン、果物、宝石、名水、名山など魅力が盛りだくさんです。峰ヶ丘同窓会の皆様、様々な機会をみつけて山梨にお越しくださることをお待ちしております。

（生植H20年卒 加藤 治）

FUKU
SHIMA

福島県支部総会

福島支部総会は平成30年11月18日(日)に郡山市「プリシード郡山」において、40名の出席のもと盛大に開催されました。

総会では、後藤達夫支部長（農経S46卒）の挨拶に始まり、来賓として同窓会本部から出席いただいた守山拓弥先生から総会開催に当たってお祝いの言葉をいただくとともに、大学の近況についてご紹介いただきました。

総会ではスムーズな議事進行により、支部活動経過、収支決算報告が承認されました。

また役員改選が行われ、新たに谷井彰氏（農S54卒）が役員に選出されました。

総会終了後、恒例の記念撮影を行い、続いて懇親会へと移りました。

懇親会では各会員とも年齢差を感じさせない飲みっぷりで盛り上がり、峰ヶ丘時代の思い出やお互いの近況など話題に花を咲かせ楽しいひと時を過ごすとともに、宇都宮大学歌を声高らかに大合唱し、来年度の再会を誓い散会となりました。

なお、平成31年の総会は福島市で同時期の開催を予定しておりますので、県内在住の同窓生の皆様の多数の出席をお願いいたします。

最後にご来賓としてご出席いただきました守山先生、並びに同窓会本部事務局に御礼を申し上げます。

次年度は福島市開催です。

引き続きよろしく申し上げます。

（農H5卒 長谷川 浩）



クラス会 (16クラス会)

全国のクラス会のご紹介です。毎年たくさんのクラス会が催され、ご寄稿いただいています。紙面の都合上、写真は1枚、原稿は800字までとさせていただきます。何卒ご協力のほどお願い致します。

1 人生百年時代に生きる No.2 クラス会 新農学科第7回生

私たちが宇都宮大学峰ヶ丘キャンパスを離れてから、なんと60年もの歳月が流れました。

様変わりしたキャンパスには、日々、若い息吹が充ち満ちています。

「生かされているいのちを輝かせているか
生かされているいのちに感謝しているか
人生なかばでこの世を去った友の墓前に
わが人生を思う」

實美

ある僧侶の言葉を引用させていただきましたが、私たちが一年一度の集まりは、人生半ばにしてこの世を去った友人達への鎮魂の機会でもあります。

今年も「集まれる間はいつまでも」と話し合いつつ、開



左から 大塚、三浦、小堀、篠原、岡本

この映像は、昨年11月6日(火)～7日(水)に実施したホテルロビーでの同期会メンバーの写真です。

随分少なくなりましたが、今年はもう少し大勢になりそうです。お楽しみに!! (文責 岡本)

2 農学科8回生 草津温泉に集う クラス会

毎年開催することにしたクラス会。今回は平成30年6月10～11日に開催した。

幹事は、群馬県出身者片山・櫻井。

水上温泉以来2回目の群馬県開催。当初、白根山の噴火



や台風5号の心配があったが、予定通り15人が参集した。宿泊は「ホテル一井」で湯畑前。部屋割後は温泉街を散策し、「草津良い所一度は」と「湯もみの実演」を見て温泉にて汗を流す。宴会会場で記念写真撮影後は、飲んで食べて歌って九時にお開き、幹事部屋に移り11時まで談笑。

翌日は早出の者、軽井沢方面、自家用車組等の為、朝食後、解散、来年の栃木県内の再会を合言葉で別れた。



3 農学科第8回生同窓会を開催 クラス会

我々、農学科8回生の同窓会を、去る平成31年4月21日(日)・22日(月)に1泊2日で日光東照宮隣接の東観荘で開催いたしました。

日程は初日12時30分にJR日光駅集合で、世界遺産めぐりバスを利用し、改装なった東照宮をガイド付きで拝観し、五重塔の心柱と構造を見学して、3時半ごろに東観荘に入り、温泉で汗を流し、6時頃から夕食宴会を楽しみました。

二次会には宇大農場産の焼酎「宇大ロマン」を持参し、盛大に盛り上がりました。

翌日はバスで奥日光まで上がり、戦場ヶ原・竜頭の滝・立ち木観音・華厳の滝を見物して、東武日光駅前のイタリア料理店で昼食をし解散という日程で開催しました。

我々の科は、卒業時31名でしたが、現在では21名になってしまい、そのうち今回は16名が参加いたしました。81～83歳の集団ですが、気持ちは万年青年、元気はつらつの参加者が大部分でしたが、中には送迎付きで参加した



日光東観荘での宴会前の記念写真

人、歩行に難儀しながら参加した人もおり、その努力に幹事として深く感じ入るものがありました。

欠席の方々も気持ちは「参加したい・参加したい」でも療養中とか、家庭の事情とかで泣く泣く欠席となった方々ばかりでした。寄る年波と申しましょうか～～。

写真をご覧下さい。髪の毛は白髪でも、顔色は良く活き活きとしております。

しかし、老化は足・腰からです。歩きましょう。ポールウォーキングもお勧めです。

そんなことで、当農学科第8回生の集いは、「おちこちの会」として60年間の長きにわたり開催してまいり、名残惜しさも感じますが、今回をもって最後と致しました。

同窓の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、また、峯ヶ丘同窓会の益々の発展をご祈念申し上げ末筆といたします。(幹事 増淵 博)

4 農学科第10回生クラス会報告

平成30年10月22日～24日に昭和37年卒業の農学科第10回生クラス会が開催されました。前回は2年前に大分県で開催されましたが、今回は長野県在住者が幹事となって長野県を代表する温泉の戸倉・上山田温泉で一泊しました。夜の宴は遅くまで続き、学生時代の思い出に浸り車座になって校歌・寮歌を歌って旧交を温めました。翌日は善光寺、戸隠神社を参拝し、昼食は宿坊で信州そばを堪能しました。参加者は11名で8県の広範囲からの集まりでしたが、さらに希望者で「信州もう一泊」のクラス



会2次会を行い、23日は北信州の紅葉の名所である松川渓谷の山田温泉に泊まり、24日は小布施町の葛飾北斎美術館を見学しました。

今回のクラス会では直前になって体調不良の欠席者が複数出てしまい、傘寿を迎える老いの身をお互いにしみじみ考えさせられたクラス会でもありました。

今回は2年後に宇都宮で開催することになり、元気で再会することを約束しつつ、お互いに握手を交わして別れを惜しみ長野駅で解散しました。(高野 義文 記)

5 喜寿を記念して 農学科第12回(昭和39年卒業)生、同級会を開催

全員が喜寿を迎える平成30年10月15～16日、東京において2年ぶりの同級会を開催した。今回は、同級29名のうち、すでに旅立たれた4名を除く3/4にあたる18名が東京は銀座に集結した。

初日の15日は、宿泊ホテルでの懇親会。冒頭、先立たれた荒井 準、星 幸男、林 茂生、赤木 博君のご冥福を祈って黙とうをささげた後、近況を報告しあい、懐かしい学生時代の秘密の「実は！」に花が咲いた。

2日目は東京スカイツリーへの「はとバス観光」。薄曇りながらも眼下に広がる首都の風景に目を見張った。

我々39年農学科は、卒業以来ほぼ2年おきに全員同級会を各ブロック持ち回りで開催しており、今回は第22回目。これまでに、宇都宮9回、鹿沼、鬼怒川・塩原・馬頭温泉、伊香保温泉、秋保温泉、松島、東京などのほか、2005年には当時イチゴ栽培の技術指導でタイ国チェンマイに滞在していた(故)赤木 博君を頼って夫人同伴の海外同級会を開催したり、2012年には、ご自身被災した佐藤堯君の案内で、東日本大震災被災地の南三陸町で復興支援同級会を開催したほか、入学当初から仲が良かった学芸学部の家政科の皆さんとの合同同級会5回を含んでいる。

今回は2020年、傘寿を目前に福島県において開催することを約して帰路についた。

今回の同級会開催は澤井孝慈君のご尽力によるものであり、級友を代表して厚く御礼申し上げます。(関口(洋))



6 昭和42年度農学科入学同窓会

昭和42年度農学科入学の同窓会が、峰ヶ丘祭に合わせ、11月23・24日の日程で開催されました。前回は福島県、前回は岡山県で開催され、久しぶりの栃木県開催となりました。

同窓会には、全国から、古希を迎えた・過ぎた15名の男性と2名の女性が参加しました。また、松澤康男先生と藤重宣昭先生のご臨席を賜り、寺中先生と稲泉先生からはお祝いのお手紙等をいただきました。

一日目は、16時頃から会場に集まりだし、酒が入り一次



会が始まりました。18時からの懇親会では、松澤先生・藤重先生のご祝辞に始まり、参加者の近況報告、急遽欠席となった2名と欠席の連絡があった15名の近況報告と続き、懇談では、学生時代の思い出話や近況の情報交換等で盛り上がりました。

さらに20時からの三次会にも全員が揃い、膝突合せ、酒を酌み交わしながらの様々な会話・交流が翌日近くまで続きました。

なお、同窓会には、松本夫妻から胡蝶蘭が寄贈され、藤井君が育種した「紫陽花」(種苗登録中)の紹介と苗の贈呈等がありました。

二日目は絶好の日和で、恩師訪問グループと馬頭・黒羽方面散策グループ等に分かれ、新たな思い出を育み、楽しい一日を過ごしました。馬頭・黒羽グループは、馬頭美術館、雲巖寺、科学技術長官賞を受賞した井上君の会社の工場等を見学しました。

今回は、2年後に秋田県で開催することが決まり、再会することを約束して散会しました。今回諸般の事情で参加出来なかった皆さん、参加されることを願っています。
[追伸：有志の同窓会は、毎年、田中山荘で開催されています] (文責 鈴木 忠)

7 第17回農学科卒(昭和44年卒) クラス会開催

我々のクラス会は卒業以来毎年開催、今年は(平成30年)11月6～7日、神奈川県箱根湯元「ホテル明日香」で49回目のクラス会を開催しました。出席者は19名で、初めての出席者が1名いた。入学時の在籍者は35名でしたので約半数が出席したことになりますが、残念なことに現在までに2名の物故者がいます。今回出席予定の岩下嘉光名誉教授(クラス担任)が体調不良のため急遽欠席されました。岩下先生は現在90歳、担任されたのは30歳台後半でクラス担任は我々が始めてのことで、思い入れがことのほか強かったせいかクラス会開催時には殆ど出席されています。当会は平成16年に「岩峰会」と命名し、先生直筆の小旗を作り、毎回宴会会場に掲げています。先生は下戸なのですが、話が好きで話題が多く、夜中まで続く二次会まで付き合い、酔っ払いの諸氏に対応してくれます。70歳過ぎても多くのクラスメートが集まってくるのも先生がいるからかもしれません。今回も先生に期待して出席した人もいたと思いますが、居なければ居ないなりに各自の近況報告に結構盛り上がりました。また、出席者の一人が持参した卒業式当日(昭和44年3月18日)の一人一人の記念写真を眺め



て余りの凛々しかった自分に驚いたり、「いなほ」(農学科会誌、第7号)に掲載された岩下先生の「卒業生を送るにあたって」の文章を読み、社会人として巣立った当時を思い起こさせ、感動に涙管が緩むのを禁じえなかった輩も多かった。何よりも卒業以来初めての出席となった輩(福島君)が居た。すでに全員が現職を引退して、悠々自適の毎日を送っているようだが、それぞれに多少の体調の不良を訴えながら70有余年の生きた実績は、自信に満ちた表情を見せていました。二次会が夜遅くまで続いたことは例年通り。来年は宇都宮で再会することになった。(関記)

8 第2ラウンドは群馬から ~林学科13回生(S40卒)クラス会~

各県持ち回り開催が一巡し、今回から第2ラウンドとなる林学科13回生(S40卒)のクラス会は、昨年に続き能登君の幹事により群馬県丸沼高原の座禅温泉「シャレー丸沼」で開催した。ここはかつて彼が責任者として勤務した関係から、彼の多大な配慮に与った。

2泊3日のスタートは宇大構内。降りしきる雨の中、昔と変わらぬ庭園の向こうに残る講堂を懐かしんだ後、大谷観音を経て船生の演習林へ。暫時周囲を散策。真夏の森林内での測量の厳しさや製炭実習の楽しさなどに加えて、宿舎で酔いつぶれた挙句、池の端で寝込んだことなど懐古に浸った。その後、日光から金精峠を越えて丸沼高原の宿舎へ。

その夜、まず北海道極真空手師範である野田君の空手演武「釵の型」に魅せられた後、懇親会。1年ぶりの再会は酒の勢いもあって懐旧の話題で盛り上がり、60年の時間は吹き飛んだ。

2日目も雨。奥白根登山を予定していた数名はがっかり。標高2,000メートルまでロープウェイで上がり、自然散策を楽しんだ。夜はまたアルコールで懇親。昼間散策の折に採取したナラタケなどの野生キノコをすいとんナベにして貰ったが、数種のキノコの成分が醸し出されて絶妙の味だった。

最終日は何の因果か、またも雨。河岸段丘の沼田市内を通り吹割の滝を観光した後、日本一の規模を誇る「道の駅川場田園プラザ」へ。ここでは広大な園内の自由散策と昼食。

午後は「矢瀬親水公園」の縄文遺跡を見学。ところが思わぬハプニングが待っていた。数本の木から弾けたクリが散らばっており、みな夢中で童心に返ってクリ拾いに興じた。午後2時、それぞれ名残を胸に来年北海道での再会を



約して解散となった。

参加者：安藤毅、五十嵐保雄、今井正夫、小沢征夫/ミス、
小野宏昭、河口俊、田中康一、野田正宣、能登
洋治、樋口義毅、三井紘一/真理、山口栄一
途中までの参加：石井厚、岡崎明、廣瀬勝康

(河口記)

9 林学科第18回(昭和45年卒業) クラス会

平成30年10月13日にクラス会を開催しました。以前は間断的なクラス会の開催でしたが、平成24年からは場所を宇都宮に固定し、毎年開催しています。

昨年は、春の叙勲で大槻幸一郎君が栄えある「瑞宝中綬章」を授章されましたので、祝賀会を兼ねたクラス会となりました。

会の冒頭、大槻君が作成した映像「私のこれまで歩んできた道」がプロジェクターにより映し出され、彼から説明がありました。

この中には、演習林実習など大学時代の映像もあり、一同懐かしく思い出したところでした。

毎回出席者が近況報告をしますが、古稀を過ぎたこともあり、健康の維持に関する話題が多くなりました。

このほか、お互いに同感する話題も数多く、毎年楽しいクラス会となっています。正に同級生ならではの世界です。

東京オリンピックが開催される来年は、我々にとって卒業50年目の節目の年です。皆、健康管理には、十分留意し、来年の再会を誓い合い散会しました。(幹事 小松)



10 宇都宮大学農学部林学科19回生 クラス会 (昭和46年卒業) 同窓会報告

平成26年に第1回目の同窓会を43年ぶりに、23名の出席者で開催してから、その後は隔年毎に開催することを約束して、今回は第3回目の同窓会を下記のとおり開催しました。

1. 日にち 平成30年9月10日～9月11日(1泊2日)
2. 場所 箱根湯元温泉ホテルおかだ
3. 出席者 17名(順不同)
石見博志、稲葉二郎、佐藤孝夫、湯沢徳雄、
横松薫、秋山輝次、立壁敏夫、島村利男、
松本良夫、佐藤明、押久保力、古村誓一、
坂本逸馬、中津川治、波田野雄二、平野和
二(旧姓小林)、菅澤康男

同窓会の全員が古希を迎える年齢となり、体調を考慮し

て出席できない旨の連絡を頂いた人も何人か出てきましたが、当日は名湯、箱根の温泉にゆっくりと浸かり、宴会で盛り上がり、その後の二次会などで出席者の近況報告や学生時代の話に花が咲くなど、久しぶりに旧交を温めることが出来ました。

次回を2年後に開催する予定にして、次の再会を約して世話役を決め、翌日はゴルフに出かける人、箱根古道を散策に出かける人など、それぞれ思い思いにホテルのチェックアウトまでの時間を過ごして散会となりました。

(中津川 治 記)



11 林学科22回生(昭和49年卒) クラス会 同窓会

平成30年11月23日同窓会が開催されました。15年前を第1回として、今回で5回目となります。今回は峰ヶ丘祭の日程に合わせました。フランス式庭園に集合時間を決めて、早めに来た人は学内を散策したり、展示や出店を見て回ったり、食欲をそそるにおいが充満している中で、宴会の酒を美味しく飲むために自重気味。驚いたことに、緑地の木々が大きく育っており、シラカシ、メタセコイア、スズカケノキなどの太さにも風格があり時の流れを感じました。

農学部では、学科の再編が行われ林学科は森林科学科に、他の学科も名前が変更されて学科の名前だけでは内容を推測することができないようです。時流の変化はあったとしても、フランス式庭園は、変わらず私たちを迎え入れてくれ記念撮影をしました。

宴会は泉町のスナック街に直結し、二次会にも便利なホテル丸治で行いました。近況報告や思い出話に花が咲き、司会の吉永(今成)君の巧な進行に乗せられて、秘すべき



山根 細田 清水 五十嵐(五月女) 宮崎 蓮沼 金子 岡本
吉永(今成) 神尾 竹川 柴沼 森田

武勇伝もあからさまになったりと、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。二次会は神尾君の歌を皮切りに声を張り上げ懐かしい歌などを歌いました。

参加者の中でも遠くは、北海道地震で被災した札幌から細田君、それに水害の岡山県から山根君などが駆けつけてくれました。

体調不良で参加できなかった方が多い中、今回は皆で誘い合い、またお互い元気で再会しようとして散会しました。(文責 岡本 克則)

12 農経科 (昭和46年 3月卒業) 同期会 クラス会

我が同期会は男子会である。在学中、他の学年には女生がいたのに何故か、野郎ばかりのクラスでした。その分、まとまりが良かったのかも知れませんが、学園紛争が真っ盛りの時代でもありました。

卒業してから47年経過しましたが、その間、同期会は、今回を含め4回開催しています。H3年3月鬼怒川温泉ホテルタカハラ、H20年11月宇都宮市ホテルニューイタヤ、H23年5月東京南青山会館。前回は東北大震災の被災地である学友を励ます会でした。

H30年6月の今回は、皆が古希を迎えたか迎える年なので、名目、古希(長寿)を祝う会にしました。また、今までは宿泊付きの大酒宴会でしたが、歳もとったことだし、おとなしく昼食会形式のバイキングにしました。もちろん、飲み放題、食べ放題つきです。

宇都宮市内、県内居住者が多いこともあり、前々回の開催と同じホテルニューイタヤさんをお騒がせしました。

46名のクラスでしたが、既に物故者が7名、所在不明者が4名いて、連絡のつく35名中24名の出席者でした。ほぼ毎回25名前後の出席者なので、まずまずの人数です。誰かが、我らの年齢で、7名の物故者なんて多くないかと言っていましたので、幹事が開会の挨拶後、全員で神妙に黙祷を奉げました。

しかし、会が始まると一気に50年も若返り、オイお前と言いたい放題の楽しい思いを述べる語らいの場に盛り上がり、時の経つのを忘れるほどでありました。

次回の開催を喜寿の年とする旨を幹事が表明すると、それまでは長い、後期高齢者にして欲しいとの意見も出て、收拾がつかず、開催地を含め検討事項となりました。「それまで元気で頑張ってくれ、次回に会えるのを楽しみに」で、会を締めた次第であります。

(幹事 伊藤元、平岡、松瀬)



13 畜産学科12回クラス会報告 クラス会

畜産学科12回生のクラス会は長野県在住の小林洋一君のお世話により、戸倉上山田温泉「ホテル晴山」にて、平成30年10月17～18日に開催されました。

参加者は国府利武夫妻、小林洋一夫妻、藤田繁夫妻、山本悦丸夫妻、橋本義彦、中村洋介、中村新、田中、榎、石坂彰敏(順不同)の各氏13名です。

卒業後のクラス会は、現職で働いていた若い頃に千葉県で開催されたのを最後に久しく途絶えていましたが、平成26年の藤田和夫君の訃報を機に再会の話が持ち上がり、栃木県(鬼怒川温泉)、茨城県(鶴の岬)、群馬県(宝川温泉)と、県在住者による持ち回りの形で開かれ、今回再会4回目を迎えました。

このクラスは入学者28名のうち5名が他界、クラス会は病気治療や体調不良、行事重視等による欠席者が多かったことから、3年前より家族参加も加えました。

ホテルにはチェックイン前に入館した者もいて、懇親会の前から話の花が咲いていました。午後6時懇親会場で記念撮影の後、小林幹事の挨拶、今回初参加となった幹事の奥様の自己紹介、参加者最長老格橋本さんの乾杯の音頭と続き、飲み放題の懇親会が始まりました。奥様方を除けば毎年同じ顔ぶれということもあり、近況報告等は特に時間を設けずに直ちに宴に入りました。懇親会は奥様方には理解に苦しむ大学時代の裏話から寮生活や健康・趣味の話、はたまた政治経済と話題は膨らみ盛り上がりました。二次会は別会場で幹事心配りの酒肴のほか、各自持ち寄った地酒等で話題は尽きず、夜遅くまで宴は続けました。特に小林夫妻の栽培された獲りたてのリンゴ(シナノゴールド)は美味しくいただき宴に花を添えました。

翌日は、朝食時に来年のクラス会を千葉県で行うことを決定し、小林夫妻から提供されたリンゴと国府夫妻から提供された黒ニンニクをお土産に、再会を約して散会となりました。(石坂 記)



14 畜産学科16回生(昭43卒)クラス会 平成30年10月29日～30日

毎年、クラス会は栃木を基軸とし、時には各地方の在住者が持ち回りで地元開催してきました。おおむね一回りし、今年是在住者不在の山形県鶴岡市を選びました。宿泊した湯田川温泉は、「蝉しくれ」や「たそがれ清兵衛」で知られる藤沢周平ゆかりの地です。

11名が参加し、山形の酒を酌み交わしながら旧交を温めました。早々にお休みになる方、ますます元気に日付を越えてお喋りした方と多様ではありましたが、翌朝は全員揃って朝食そして次の日程へと進みました。



さて、私どもが卒業した昭和43年は明治100年でもあります。今年平成30年は卒業後50年、明治150年という節目の年です。ご存知のとおり、鶴岡には明治維新のとき会津藩などと共に奥羽越列藩同盟の先頭に立った庄内藩の居城がありました。あわや東北が日本から独立するかというところまで抵抗し、一番最期に政府軍の軍門に降った藩です。翌日は、この庄内藩藩校の致道館博物館をめくり、庄内での明治維新、武士の日常生活の様子、北前船の交易などの展示を見ることができました。

途中、風雨による電車の遅れにも遭遇しましたが、全員無事帰宅しました。

参加者：石崎、小里、小原、河西、片貝、佐藤隆、鈴木正銆、関、手塚、間山、渡邊

(河西記)

15 農芸化学27回生クラス会 クラス会

私たち農芸化学27回卒業生は11月3日東京駅近所ですが、同窓会で集合しました。

15名。イタリアンレストランで大皿を囲んで食事会をしました。



その後、皇居で記念撮影。あいにく日本人が見つからず、Won't you please take our picture? Sure. と快く撮影してくれた女性は、from Germany。日本中に外国人があふれています。

60歳引退はもう古い。100歳まで頑張りましょう。皆、若々しい62歳でした。

尚、幹事は金城政孝、小泉京子（旧姓島田）、矢部正隆、島田でした。 (島田 寛)

16 クラス会打ち上げはアンコウ鍋で (A 6 クラス会報告)

昭和33年卒農学科クラス会が、茨城県大洗町の割烹旅館「肴屋本店」で平成31年2月6～7日に開催された。

今回は幹事・高野さんの手配によるアンコウ鍋がメインだ。すでに仲間の4割・15名が他界し、残る23名も体調不良等で、参加者は9名となった。

アンコウ鍋・あん肝を味わいながら、現状や思い出話、そして今後のことが話題となり、高齢化（平均84歳）で参加者の減少傾向を踏まえ、これまでの定期的なクラス会は今回で終わることになった。

思えば宇都宮市内の青年会館で始まったクラス会も、各県持ち回りで愛知県から北海道まで20数か所になる。情報誌・「古希」「傘寿」や各所での数々の思い出と心の絆を胸に、更に健康長寿を目指したいものである。

二日目は、朝食後近くの海産物専門店でお土産を手解散した。

(山野 記)



後列：佐藤 山野 高野 中沢 鈴木
前列：橋本 福田 中嶋 高橋

皆様からの便りを

お待ちしております。



学生支援制度報告

The 23rd International Conference On Plant Growth Substancesに参加して

地域創生科学研究科 工農総合科学専攻 農芸化学プログラム

天然物化学研究室 修士1年 竹原千恵

私は6月25日から29日までフランス・パリで開催されたThe 23rd International Conference On Plant Growth Substancesに参加させて頂きました。この学会は植物ホルモンに関して研究を行っている研究者が世界中から集まる学会です。

私は“Quantification of abscisic acid in testa, cotyledon, plumule, hypocotyl and radicle during seed germination of legumes”というタイトルでポスター発表を致しました。アブシジン酸は発芽や植物のストレス応答に関わる植物ホルモンのひとつです。種子が適切な環境下で吸水するとアブシジン酸の含有量が減少し、発芽に繋がることが分かっています。しかし、種子の種皮、子葉、幼芽、胚軸・幼根など、各器官でABA量がどのように変化するかは不明でした。今回の研究ではLC-MS/MSという分析装置を用いて微量のABAを検出し、マメ科植物4種（ダイズ、ソラマメ、ヒヨコマメ、インゲンマメ）の種子において各組織のABA量がどのように変動しているのかについて発表させて頂きました。ポスター発表にて自分の英語が外国の人に伝わり、話し合うことができた時は嬉しく、英語の素晴らしさを感じました。学会では講演やポスター発表を通

じて植物に関する様々な研究について触れることができましたが、英語だったこともあり、なかなか理解することが難しかったです。自分には英語を聞き取る力や、植物に関する幅広い知識がもっと必要であると強く感じました。今回の学会で見聞きしたこと、感じたことを大切に今後の研究に励んでいきたいと思えます。

パリではエッフェル塔やルーブル美術館など観光に行き、様々な芸術に触れて楽しむこともできました。白を基調とした古くからの建物が多く並んでいて、街並みがとても綺麗でした。フランスには物を長く大切に使う文化があったり、目が合った人に対してにっこり微笑むという習慣があったりと、素敵だなと感じました。

最後になりますが、研究指導をしてくださった謝先生、研究室の方々、国際学会への参加のご支援をしてくださった峰ヶ丘同窓会の皆様に感謝申し上げます。



The 23rd International Conference on Plant Growth Substancesに参加して

地域創生科学研究科 工農総合科学専攻 分子農学プログラム

植物化学遺伝学研究室 修士1年 宮田百華

私は6月25日から29日にフランスのパリで行われたThe 23rd International Conference on Plant Growth Substances (IPGSA)に参加してきました。

この学会は植物のホルモンや生長物質、シグナル伝達過程に関心のある研究者が集まり、最新の研究を共有し議論しあうことを目的とし、3年に1回開催されています。

私は“Functional analysis of Arabidopsis CYP707As, which encode key enzymes for ABA catabolism”（シロイヌナズナにおけるアブシジン酸不活性化鍵酵素CYP707Aの機能解析）というタイトルでポスター発表をさせて頂きました。アブシジン酸は植物ホルモンの一種であり、乾燥ストレスにより植物体内で増加し植物の乾燥耐性を向上させることが知られています。今回の研究ではアブシジン酸の不活性化酵素の遺伝子を複数破壊したシロイヌナズナの変異株を使い、環境の変化に対する応答や酵素遺伝子を壊したことによる形質の違いなどについて発表させて頂きました。

ポスター発表を通して、英語で自分の研究について発表することは想像以上にとっても難しく、自分の英語力不足を

強く感じました。また他者の研究を聞いて、世界では様々な研究がされていることを知り、多くの人と議論するには、研究に関連した幅広い知識を持つことが重要であると感じました。学会全体を通して、他大学の学生や先生など多くの人と話すことができ、研究に対する姿勢や考え方を改めて考えるきっかけとなり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

学会期間中、フランスは記録的な猛暑でしたが冷房があまり設置されてなく、どこに行っても暑かったです。食事は美味しく、ただ歩いているだけでも歴史的な建造物に魅了され、学会以外でもたくさんのことを学びました。今後、今回の学会で学んだことを生かして、日々の研究に取り組んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、このような貴重な経験をする機会にご支援いただき峰ヶ丘同窓会に心より感謝申し上げます。



令和元年度理事会報告

令和元年6月22日(土)13時より、宇都宮市内ホテルマイステイズ9Fにて令和元年度理事会が開かれた。以下に項目別に議事内容を記載する。

1. 開会

司会の小笠原勝常任理事より、構成員67名のうち、出席者36名、委任者17名、合計53名で、会議が成立していることが報告された。

2. 物故者への黙祷

理事会の開催に先立ち、物故者への黙祷を行った。

3. 同窓会会長挨拶

松澤康男同窓会会長から、これまで常任理事として、経常的な課題、喫緊の課題、将来的課題について議論を重ねてきており、今日の理事会が実りあるものとなるよう御議論をお願いしたいとの挨拶があった。

4. 議長選出

議長として、松澤同窓会会長が選出された。

5. 会務報告

田坂聡明理事長より、会務について報告された。

支部会総会合計13件、常任理事会12件、が開催され、宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会が2件、学生評議員会などその他の行事6件、同窓会会報156号の発行、支援制度としては教員教育研究支援制度2件、学生支援制度16件)を実施したことが報告され、これらの会務が承認された。

6. 平成30年度決算報告及び監査報告

安藤益夫会計担当理事より、決算報告があった。

一般会計 歳入については、会費は主として新入生からのものであり、新入生の約7割にあたる513万9千円であった。次に、一般会計歳出報告があった。

特筆するところは、峰ヶ丘会報600部減冊による通信費、発行費の減額および総会の出席者の人数が減少による会議費の減額などであり、学生支援経費は学費支弁者1名につき増額(10万→20万円)したことに伴い増加となったことが報告された。

さらに、基本財産特別会計について、赤字の分の繰り入れ分を差し引いた額であることが説明された。引き続き、会計監査について、畜昭47卒・石塚正恵監事より、平成30年度会計監査を実施し、誤りのないことが報告された。



7. 役員選出

常任理事について変更はないことが報告された。

また、副会長より体調不良のため辞退の申し出があり、新副会長は、開昭48卒・大塚国一様に依頼することが提案され、承認された。

8. 令和元年度事業計画

田坂理事長より、1. 理事会の開催、2. 常任理事会の開催、3. 新入生歓迎会の開催、4. 「峰ヶ丘会報」の発行(年1回 全会員に送付)、5. 各支部総会への出席、6. 農学部への協力支援、7. 学生評議員会の開催、8. 「学生支援制度」の実施、9. 「教育研究支援制度(教員会員)」の実施、10. 大学諸行事の協力、11. その他を事業として行うことが提案され、承認された。

また、今年度は70周年の記念への協力依頼が提案され、承認された。

9. 令和元年度予算

安藤益夫会計担当理事より、令和元年度予算案が提案された。

昨年度の実績である新入生からの納入率が7割を歳入として予算とした。

特に、会報の減冊のため通信費と会報発行費を減額、学生支援制度が充実したことにより予算額を増額した。なお、宇都宮大学70周年記念事業として農学部とともに支援する予定で予備費を5万円ほど計上した。差額について、特別会計の繰り入れを提案した。理事より、収入と支出とのバランスを考慮する必要があるのではないかとの意見が出された。これに対して、会計担当常任理事および理事長から、原因は収入の減少等であり、これを改善しながら今後は最終的に予算の範囲にあわせるよう努力する予定であることが述べられた。

10. 同窓会会則・事務規定の改正

会則改正について

本年度より新設された地域創成科学研究科は、5学部に対して1研究科なので、指導教員が農学部教員であることを要件とする旨を記述することが提案された。

また、基本財産特別会計について、記載すべきと前回総会で承認をえたが、会則に記載されていないので、本総会で諮り記述することが提案された。

また、第25条について、遺族の方はこの会則を知ることはないと考えられるため、削除することとした。これらの会則改正は、承認された。

11. その他

内容：大学では、旧宇都宮高等農林学校時代からの歴史的な建造物群を後世に残すことを目的として、ヒストリカルゾーン（フランス式庭園、イギリス式庭園、旧講堂および石蔵：大谷石造りの旧図書館）の整備を進めている。なお、大学としては宇都宮大学70周年記念式典に構想をオープンしたい意向があり、また、農学部100周年記念事業の一環として2022年秋に竣工式を行いたいとの希望がある。石田朋靖学長によれば、以上の計画を進めるためには、本年度の7月中旬に予算を確定したいとのことであり、同窓会に資金協力の依頼があった。

これを受け、常任理事会より、特別会計のなかから、金一千万円支出するという案が提出され、石蔵改修の目的、使途、同窓会の利用法やその後の維持費用等について様々な意見が出された。



採決の結果、賛成多数で資金の支出が承認され、今後の対応については常任理事会に一任することが承認された。なお、予算の計上については、さらに改修計画などを検討した後、次年度に行う予定であることが理事長より説明された。

理事会終了後、同ホテル9Fの会場にて、懇親会が開催された。石田朋靖学長、齋藤高弘農学部長から祝辞をいただいた。学長からは、The 大学インパクトランキング2019で、宇都宮大学がSDGsの評価が国内4位であること、日経による企業人事担当者のイメージ調査総合ランキングでは6位であることが紹介された。その後、経昭29卒・伊澤様の乾杯の音頭で開宴、歓談後、工昭32卒・上野様の万歳三唱にて閉会した。

会務報告

1. 支部総会等の開催

- 2018. 7. 7 茨城支部総会
- 2018. 7. 7 山形支部総会
- 2018. 8. 3 富山支部総会
- 2018. 9. 6 栃木県庁支部総会
- 2018. 10. 27 長野支部総会
- 2018. 10. 27 岩手支部総会
- 2018. 10. 27 宮城支部総会
- 2018. 11. 16 群馬支部総会
- 2018. 11. 18 福島支部総会
- 2018. 11. 24 秋田支部総会
- 2018. 12. 7 宇大支部総会
- 2018. 12. 8 栃木県高校教職員連絡会
- 2019. 1. 25 千葉支部総会

2. 常任理事会等の開催

- 2018. 7. 20 第1回常任理事会及び引継会
- 2018. 8. 24 第2回常任理事会
- 2018. 9. 5 第3回常任理事会
- 2018. 10. 1 第1回宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会
- 2018. 10. 17 第4回常任理事会
- 2018. 11. 12 第5回常任理事会
- 2018. 12. 7 第6回常任理事会
- 2019. 1. 16 第7回常任理事会
- 2019. 2. 13 第8回常任理事会
- 2019. 3. 7 第2回宇都宮大学各学部同窓会連絡協議会
- 2019. 3. 6 第9回常任理事会
- 2019. 4. 15 第10回常任理事会
- 2019. 5. 13 第11回常任理事会
- 2019. 6. 10 第12回常任理事会
- 2019. 6. 22 令和元年度理事会

3. その他の行事

- 2019. 1. 16 学生評議員会
- 2019. 3. 22 宇都宮大学卒業式
- 2019. 4. 03 宇都宮大学入学式
- 2019. 4. 08 農学部新入生保護者説明会
- 2019. 4. 08 新入生歓迎会
- 2019. 5. 20 平成30年度会計監査

4. 「峰ヶ丘同窓会報」の発行

- 2018. 10. 1 第156号発行

5. 支援制度

教員教育研究支援制度（海外学会・農学部栄誉賞）計2件
 学生支援制度
 （学費支援1件・海外学会支援1件・農学部栄誉賞14件）
 計16件
 以上会務報告

○会員数及び会費納入状況（大正15.3卒～平成31.3卒）

会員数	旧制	新制	計
卒業者数	3,559	15,470	19,029
物故者	2,777	1,135	3,912
現会員数	782	14,335	15,117

納入状況	旧制	新制	計
現会員数	782	14,335	15,117
納入者数	651	11,659	12,310
納入率	83.25%	81.33%	81.43%

※平成31年4月入学者の納入率：146名／206名 70.9%

※※※※※ 支部長一覽 ※※※※※

支部未加入の方、転居等で支部が変わられた方は、支部長へ御一報をよろしくお願ひします。

支部名	卒年	氏名	電話番号
北海道	昭44経	吉田 博昭	
青森	昭39林	小野 隆一	
秋田	昭49農	保坂 進	
岩手	昭45農	山口 和彦	
宮城	昭46畜	氏家 清明	
山形	昭45化	佐藤 淳司	
福島	昭46経	後藤 達夫	
新潟	昭40工	春日 健一	
長野	昭37農	高野 義文	
群馬	昭44林	二見 秀隆	
栃木県庁	昭58開	荒井 真一	
宇大	昭52林	田坂 聡明	
塩谷	昭33林	田鹿 元貞	
茨城	昭46農	菊池 正蔵	
千葉	昭54開	綱 康次郎	
神奈川	昭43工	平野 昭雄	
埼玉	平2林	鈴木 英雄	
静岡	昭55経	鈴木 敬志	
山梨	昭25林	武川 仁	
岐阜	昭50経	石樽 正治	
三重	昭34林	望月三佐男	
和歌山	昭49開	中尾 健	
奈良	昭48林	住友 重美	
京都	昭49林	松下 正徳	
石川	昭42農	塩口 直樹	
富山	昭49農	横山 直一	
兵庫	昭39工	牛島 眞一	
広島	昭13経	中岡 一郎	
山口	昭48農	福田昭二郎	
鳥取	昭34経	居吹 直文	
岡山	昭42林	齋藤 允利	
高知(代)	昭31林	江口 俊男	
佐賀	昭50化	合瀬 健一	
長崎	昭55開	曾我 忠治	
熊本	昭48畜	中尾 悦郎	
大分	昭41総	江無田哲生	
宮崎	昭44林	土持 勲	
鹿児島	昭14林	有馬 久典	
沖縄	昭41農	村山 盛一	

🎀 お悔やみ 🎀

下記の方々のご冥福をお祈り致します。
平成30年9月～令和元年8月までの物故者

※事務局で把握しているものの掲載です。

農学部

農15：斎藤 甚三	農16：田中 勇
農19：島田 尚光	農19：矢内 照雄
農20/21：飯田 栄	農22：鶴見 光雄
農22：郡司 哲男	農22：斎藤 正
農23：斎藤 博	農24：志村 彦衛
農24：中川 英二	農25：久野 勇夫
農25：荒井 豊	農30：高野 三郎
農31：星野 三男	農34：関谷 武夫
農35：石川 秀勇	農38：小林 修
農39：赤木 博	

林学科

林20：薄井 一男	林30：新井 恒男
林30：金井 英武	林32：中村 卓司
林33：高橋 良夫	林37：宮嶋 寛治
林40：中沢 仁	林44：竹田 祐
林47：林 恵二	林49：高濱 保二
林52：野口 洋二	

農業経済学科

経12：原田 弘	経17：高橋 慶介
経18：松元 熊夫	経18：鏝水 武夫
経19：山崎 正博	経26：北條 毅
経26：石川 薫	経26：北條 毅
経31：儀部 茂男	経33：川井 淵
経37：佐々木 裕	経46：真壁 英敏
経47：山口 正彦	

獣医畜産学科

獣20：荒井 睦夫	獣22：尾崎 哲哉
獣22：大柿 隆	獣22：原 久雄
獣24：梁木 正	獣29：高瀬 照夫
畜33：岩谷 権内	畜35：伊藤 寵嗣
畜39：岩佐 毅明	畜42：斎藤 哲也
畜51：本間 浩	畜53：岩崎 満

農業工学科

土18：徳永 竜一	土19：廣瀬 博司
土23：鈴木 敬一	土25：阿部 光
土25：高島 昭俊	土26：草野 忠雄
土26：斎藤 実	土26：馬場 弘彦
土26：樋口 太郎	工29：鈴木 義昌
工36：片山 榮三	工37：山形 水哉
工38：橋本 政雄	工39：清水 正義
工39：堀江 隆史	工42：坂本 正憲
開51：若松 二郎	開55：増田 裕伸
開61：田村 薫	

農芸化学科

化23：近江 昭	化23：唐澤 寛
化24：今泉 信夫	化24：荻原 進
化24：加藤 治	化26：高田 良彦
化26：宮崎 譲次	化29：小林 幹男
化32：長谷川 操	化39：栗原 健
化39：一杉 忍	化42：鶴野 慶吉

総合農学科

総42：大屋 喜重	総42：小林 恵由
-----------	-----------

名誉教授 農学科 長田 明夫
元教員 農芸化学科 阿部 憲治 (総農38)

お祝い

このたびは、おめでとうございます。

叙 勲

2017 年秋 瑞宝双光章 林 25 小林 高夫
 2018 年春 瑞宝双光章 勲 25 菅沢 吉登
 2018 年春 瑞宝小綬章 林 26 小池 文夫
 2018 年春 瑞宝中綬章 林 45 大槻幸一郎

農学部栄誉賞

教 員

第 14 回バイオマス化学会議ポスター賞 有賀 一広

学 生

FASEB Science Research Conference, Trabel Award

鈴木 玲子
 平成 30 年度農業農村工学会大会講演会優秀ポスター賞

小島 壘

平成 30 年度ベストペーパー奨励賞 三浦 泰

森林エコシステム学生ポスター賞 山本 嵩久

植物化学調節学会第 53 回大会ポスター賞 依田 彬義

関東畜産学会優秀発表賞 赤岩 将門

第 15 回学生 & 企業研究発表会金賞

山本 悠・安田 彩乃

第 15 回学生 & 企業研究発表会カゴメ賞

山本 悠・安田 彩乃

日本内分泌攪乱化学物質学会森田賞 田中 雄大

農業農村工学会関東支部奨励賞 山田 創太

農業農村工学会関東支部奨励賞 白髭 祐未

学長賞

農業農村工学会関東支部奨励賞 白髭 祐未

今年度定年退職予定の教員

令和 2 年 3 月をもちまして、以下の教員が退職されます。令和 2 年 3 月までの連絡先は、以下の通りです。

田坂 聡明先生：森林科学科 028-649-5536
 tasaka@cc.utsunomiya-u.ac.jp

お詫び

訂 正

P.11 クラス会No.9

燦々会 → 燦久会 ※文章中も同様

P.12 左 1 行目

栃木中尊寺 → 栃木中禅寺

大変失礼いたしました。訂正してお詫びいたします。

慶弔についてのご連絡

峰ヶ丘同窓会会員の慶事および弔事の際には、会員の方々からのご連絡に基づいて対応しております。慶弔事が発生しました際には、下記事務局までご連絡ください。

I. 慶事（褒賞、叙勲等）の場合

1. 受章者、受賞者の氏名、年齢、卒業年次、学科、住所、電話等
2. 受章、受賞の種類（褒賞、叙勲その他の賞の種類）
3. 受章、受賞の日時

なお、叙勲のご連絡は、新聞などに掲載されますが、学歴まで記されておりませんので、事務局で判断し掲載することができません。関係各位からのご連絡により、ご報告とさせていただきます。何とぞご了承のほどをお願いいたします。

II. 弔事の場合

会員、会員以外の顧問・元顧問、現職教員、元教員が対象となります。

1. 逝去者の氏名、逝去日、卒業年次、学科
2. ご遺族（喪主）の氏名（逝去者との続柄）
3. 通夜・告別式の日時、場所

なお、事務局宛にご連絡がない場合、当方からの郵便物の送付を中止できませんので、何とぞご了承のほどをお願いいたします。

●連絡先：峰ヶ丘同窓会事務局

TEL：028(649)5400

E-mail：minegaok@cc.utsunomiya-u.ac.jp

月・水・金 9：00～17：00

寄贈図書

- 「川辺の散歩昆虫記、とちぎの主要20川」
*権歌書房（農37）稲泉 三丸
- 「カラス博士と学生たちのどうぶつ研究奮闘記」
（畜51）杉田 昭栄

次回会報発行日程 原稿締め切り日のお知らせ

同窓会では、皆様からの情報をお待ちしております。会報次号の発行は、2020年10月初旬の予定です。原稿の締め切りは、2020年6月30日となりますので、宜しくお願いいたします。

編 集 後 記

秋の聲が聞こえる美しい季節となりました。5月1日、平成という1つの時代が終わり令和の時代が始まりました。私たち、令和元年度執行部は、ますますの同窓生相互の親睦と交流をはかり、母校の発展に寄与していきたいと考えております。「令和」の言葉のように、同窓生と在学生、宇都宮大学農学部が美しく調和し、大学70周年、そして農学部創立100周年をみんなで祝いできることを楽しみにしております。（岩永 将司）

こ な こ と

やっています (その13)

附属演習林

附属演習林は、昭和12年に宇都宮大学の前身である宇都宮高等農林学校林学科の演習林として設置され、現在まで82年に渡り教育研究施設として管理運営されてきました。栃木県内の林業地域にある船生演習林と国立公園内にある日光演習林の二つの演習林から構成される附属演習林は、森林と人間との多様で持続的な相互関係に関する科学の実践フィールドとして、学生実習や卒業論文の調査など教育・研究に幅広く利用されています。特に、船生演習林では、現在も直営の木材生産を続けており、林業における施業・管理技術の教育・研究の場として活用されています。



附属演習林では、森林科学に関する実習や研究を通して学生に健全な森林経営の必要性を認識させることを目的に、船生演習林における森林認証の取得に取り組み、平成26年11月に大学単独では初となる「SGEC(緑の循環認証会議)森林管理認証を取得しました。現在では、SGECが国際認証制度であるPEFCとの相互承認が認められたため、船生演習林は世界標準の森林認証を有しています。森林認証を取得した結果、演習林の持続可能な森林経営や環境貢献が第三者機関の審査によって客観的に説得力を持って評価・認定されたことになり、社会からの高い信用や信頼を獲得でき、演習林の大きなイメージアップに繋がっています。また、演習林材の市場価値が向上するとともに、演習林材の販売も、CoC認証事業体を対象とした直接販売が可能となり、演習林の収益増加に寄与しています。加えて、森林認証は、SDGs(持続可能な開発目標)との親和性が高く、SDGsを实践する有効な制度であると評価されており、SGECはSDGsの達成に大きく貢献します。



SGEC森林認証

今後も、附属演習林では、森林認証を通じて、生物多様性の保全、森林生態系の維持等に配慮した持続可能な森林経営及び適正な森林施業を実施し、安定した木材生産を行い、林業の改善発達及び専門技術者の育成に努めていきます。

(文責 附属演習林 講師 大島潤一)



演習林材を使用した新築住宅

森林科学科

森林科学科の研究室の一つに森林生態学・育林学研究室があります。現在研究室メンバーは教員の久保達弘(教授)・逢沢峰昭(准教授)、学生は、博士課程3名(社会人1名含む)、修士課程2名、学部生(4年:6名、3年生:6名)からなります。歴史を見ると、鈴木内馬先生(杉並木の研究)、薄井宏先生(ササの生態学的研究)、前田禎三先生(ブナの天然更新研究)、谷本丈夫先生(広葉樹の天然更新研究)などの諸先生方が教鞭をとられてきました。



- 1) どんな学問? 森林生態学は森林植物(樹木)の遺伝・形態・生理生態や森林生態系の中での植生と人・動物・立地環境(土壌)との生態的相互関係を解明する基礎学です。また育林学とは、生態学の基礎知識を利用し、森林生態系を持続させるために必要な樹木の代替わり(更新)・仕立て(造林)・手入れ(保育)の手法を開発する応用学です。
- 2) 何に役立つのか? は、日本とアジアの森林が直面する林業を含めた森林生産や環境保全の諸問題の解決に役立てることを目標にしています。
- 3) 具体的研究テーマ? は、卒論や修士論文で「過去と現在の植生調査記録の比較から明らかになった奥日光の森林植生の50年間の変化」、「福島原発事故後の落葉広葉樹林における樹上枝葉から土壌への放射性セシウムの移行」、「高齢級コナラ林における用材林への誘導を目的とした選木法の検討」、「群馬県のナラ枯れを起こしたカシノナガキクイムシは在来か近年移入の個体群かー遺伝解析に基づく検討ー」、「日光演習林の維管束植物相」、「ボルネオ島北西部におけるブナ科植物の垂直分布様式とDNAバーコーディング」などに取り組んでいます。
- 4) 必要な知識? として、樹木学、同実習、育林学、同実習、森林立地環境学、同実習、森林生態学、森林病虫害論、森林保護学を講義しています(非常勤含む)。
- 5) 研究室で得られるスキル? は、森林植物(樹木)の分類法、植生調査法、森林立地環境調査法、造林や森林保育法、公開植物観察会(150回開催)などの企画や実施体験をとおした森林環境教育および学会活動などです。
- 6) 目指す学生像? は、国や都道府県、海外で生態系としての森林の持続的管理を实践できる人材、また技術士や樹木医などの森林技術者として活躍できる人材の養成を目指しています。

(文責 森林科学科 教授 久保達弘)



山形県小国町ブナ林の大面積長期生態調査区での研究室合同の毎木調査風景(2006年8月)、この森林で25年以上の継続調査を続けています。

フライング用中心点